



写真：制御情報工学科 5年 永谷昌也「朝霧の山麓」



- |                                  |               |       |
|----------------------------------|---------------|-------|
| 1 「香川高専図書館入門！」                   | 通信ネットワーク工学科   | 川久保貴史 |
| 2 教員によるエッセイ                      |               |       |
| 「見上げれば 夜空に浮かぶオリオンの変わらぬ輝き この世を想う」 | 一般教育科(数学)     | 星野 歩  |
| 「映像化作品と原作本に関する雑感」                | 通信ネットワーク工学科   | 正本 利行 |
| 3 卒業生・修了生から                      |               |       |
| 「本と図書館」                          | 建設環境工学科卒業生    | 植松 凌  |
| 「私と本の物語」                         | 電子工学科卒業生      | 岡本 陽  |
| 「ご利用下さい」                         | 創造工学専攻修了生     | 佐藤 敦  |
| 「図書館の思い出」                        | 電子情報通信工学専攻修了生 | 春日 基志 |
| 4 図書館貸出冊数〈平成24年4月～平成25年2月〉       |               |       |
| 5 教員・学生による推薦図書 全17編〈教員11編・学生6編〉  |               |       |
| 6 下半期ランキング〈図書、CD、DVD〉            |               |       |
| 7 図書館からのお知らせ                     |               |       |

# 香川高専図書館入門!

通信ネットワーク工学科  
川久保 貴史



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。さあ図書館へ行きましょう。沢山の本があなたを待っています!

・・・とききなり言ってみました、新入生の皆さん全員がいきなり読書好き、というわけではないと思います。本を読むよりも、外で体を動かしたりどこかへ出かけたりするのが好きな学生さんもいるでしょう。また、今の世の中、外へ出なくてもネット、スマホ、TV、ゲーム・・・などなど、たくさんの誘惑が待ち構えています。そういうことを踏まえると「趣味は読書です!」と正直に言いされる学生さんはそれほど多くないのではないのでしょうか?でも大丈夫。本学の学生になった以上、間違いなくどこかで図書館を利用することになりますから!

香川高専には図書館があります。図書“室”ではなく図書“館”です。(小学校や中学校では図書“室”の場合が多いように思いますが、いかがでしょうか?)両者の正確な違いは、各自、後ほど調べていただくとして、おおざっぱな印象を述べますと、“館”の方が規模が大きいような気がしませんか?図書“室”だと1つの「部屋」、図書“館”だと1つの「施設」といった感じでしょうか。香川高専には高松と詫間各々のキャンパスに図書“館”があり、合わせてだいたい9万冊の本を読むことができます。閉架書庫(本の倉庫。普段は閲覧用に並べていませんが希望があれば読むことが可能です。)も合わせると20万冊程度の蔵書があります。(大学の図書館と比べると負けるかもしれないですが)結構大きな規模だと思いませんか?単純計算で高専5年間(1年365日×5年=1825日)に20万冊全部を読むとすると1日110冊のペースで読んでようやく読破できる結果になりますね!・・・そんな無茶をする必要はありませんが。

蔵書の内容も多岐にわたっています。いわゆる文学から歴史書、英語をはじめとする言語の本や芸術関係、産業・技術の専門書、定期購読されている雑誌類、DVDやCD・・・さまざまなニーズに答えることが可能となっています。図書館ですから、基本は静粛に、勉強するところ、調べ物をするところです。実際、香川高専の学生として進級するにつれて、授業や実験などのレポートや卒業研究等で専門書を借りることが多くなる・・・否が応でも勉強に図書館を活用することになると思います。でも、図書館の利用法はそれだけではありません。専門書を借りる以外にも、興味を持った小説を読む(〇〇文学賞受賞作、のような本はほとんどすぐに図書館に入ります。学生の皆さんからの希望も受け付けています。)、DVDで映画を観る、雑誌でトレンド情報を知る、など。また、エアコンの効いた快適で静かな空間で試験勉強などに励んでも良いわけです。ぜひ活用しましょう。もちろん学生さんは別途の利用料は必要ありません。図書館のカードだけでOKです。ただし延滞はやめましょう!

さて、最後に、私自身のこれまでの図書館活用についても少し記してみたいと思います。私も高専の出身です。(香川高専の前身、詫間電波高専卒)在学中は、まあ、そこそこ、それなり・・・の図書館利用頻度だったと記憶しています。授業や工学実験のレポートを書くために専門書を調べたり、読書感想文を書くための本を見繕ったり、時々CDを借りてみたり・・・そんな感じでした。また、その頃(から現在に至るまで)吹奏楽部に関わっており、楽器を吹くのと並行して、自分で曲を作るとか吹奏楽編成にアレンジするとか、そういったところに興味があったため、図書館で随分と音楽理論入門!みたいな本を借りて独学していました。(2013年1月に催された、香川高専創基70周年・高専創立50周年記念式典で演奏された、旧高松・旧詫間電波両校歌の吹奏楽版楽譜は、在学当時(13年前)の私が書き残した楽譜を、現在の私が手直ししたものだったりします。月日の経つのは早いなあ。)高専卒業後、大学・大学院・社会人を経て再び大学院へ戻り、その後、教員となった現在、図書館は授業の準備のためにちょくちょくと活用しております。なので、学生の皆さん、図書館を探せば、授業内容や試験の対策などへの、大きなヒントがあると思いますよ!

## 教員によるエッセイ

### 見上げれば 夜空に浮かぶオリオンの 変わらぬ輝き この世を想う

一般教育科(数学)  
星野 歩



やわらかい春の香りが微かに風の中に漂い始めた3月の穏やかな夕暮れ。陽のあたたかさが残る公園の芝生の上に体を横たえながら、木村は宮本輝に思巡していた。

「青が散る」は主人公椎名遼平の大学入学～卒業までの4年間が描かれている。最近の、東野圭吾や池井戸潤、伊坂幸太郎といった軽快な話とは違ってどこか泥臭い、色々な人間が集まって発酵したようなそんな話だが、読むと木

村は必ず古き良き、そして希望と挫折に満ちた大学青春時代を思い出す。「道頓堀川」に代表される川三部作(泥の河、螢川)も人々の繊細な機微を綴る、温かくもあり儂くもある青春の話である。人の生き方を問う宮本輝は、現代日本純文学の旗手と言ってよいだろう。

大学生当時はよく本を読んだ。体育会運動部の厳しい練習の後、精も根も尽き果て電車で揺られる小一時間、心地

よい気だるさにまかせて文庫のページをめくる。村上春樹に傾倒した時期もあった。

村上春樹は一見するとお洒落である。レトリックを駆使し、虚構と現実の狭間を独特の翻訳文体で浮遊する。「『ねえ、あなたまだ月に戻らないの?』と彼女はくすくす笑いながら言う。ベッドの中で、裸で、体をくっつけあいながら。』\*1

彼の空虚なりアリティは金銭的、性的充足という退廃的な理想から生まれる。それは絵空事のような人生を望む、満たされることのない人間の共感を呼ぶようである。

《鼠は吐き捨てるように言った。「ノーベル賞候補だって? 聞いて呆れる。くだらないメタファーにはうんざりだ。週末に決まって金持ちの男と寝たくなる女くらいくだらないね」》

やれやれ。

宮沢賢治は人々の、そしてこの世界の「真の」理想を願った作家である。彼の素朴で優しい素直な作品は木村の信念を確固たるものにする。その一つ「銀河鉄道の夜」は銀河の星々の、親しみやすく幻想的な情景描写と相まって強く、そのメッセージを伝えている。

「僕はもうあのさそりのようにほんとうにみんなの幸のためならば僕の体なんか百ぺん灼いてもかまわない!」\*2

彼が願った理想郷（イーハトーヴ）とは自己犠牲を厭わ

ない愛に満ちた世界なのだろう。この世のため、そして愛すべき人のために命を懸けて生きていけるのであれば、それは間違いなく理想なのだと思う\*3。

いつの間にか陽も落ち銀河の星達が木村を照らしていた。

私達の周りには演劇や映画、TV、漫画、活字など数多くの言語を伴った表現手法が存在する。演劇や映画、TVは効果音を用いた動的で3次元的な表現方法だが、漫画、活字へ移るに従い、音の無い静的で1次元的な表現となる。それにつれて抽象度が上がり、逆にいえば受け取り方の自由度が増す。自由度は想像力へと繋がり、思考力や創造力といった重要な能力の基礎をなし、果ては他者に対する思いやりにまで昇華される。それは人を人たらしめている最も基本的で大切な要素であると言ってもよい。数学や英語を勉強する前に、国語の教科書\*4を読んで、そしてまともな作家の作品を読んで、是非、人として大事な「心」に恵まれて欲しいと思う。

注1) \*1 村上春樹「ダンス・ダンス・ダンス」

\*2 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」

\*3 近藤史恵「サクリフェイス」シリーズもお勧めです。

\*4 高校の国語の教科書に宮本輝の「星々の悲しみ」が載っていたことがきっかけで筆者は彼の作品が好きになりました。

注2) 文中の「思巡（しじゅん）する」という単語は、厳密には造語です。

注3) 筆者も「心」に恵まれるべく、日々精進している最中です。

## 映像化作品と原作本 に関する雑感

日本のアニメ、マンガは、世界的にも評価が高いという話をよく耳にする。確かに、絵は美しいし、ストーリーもよく考えてあって面白い。これを楽しまないのは、もったいない話だと思う。しかし、それだけで、満足して読書の楽しみを知らないのも、もったいない話だと思う。本でしか良さの味わえない作品が、結構、あるからだ。

例えば、ショートショートで有名な星新一さんの作品は、映像化することも難しいと思う。NHKで、いくつかの作品をアニメ化しているのを見たが、やはり、無理があるように感じた。他の例としては、宮部みゆきさんの「ブレイブ・ストーリー」を挙げることができる。これは、アニメ映画化されているが、原作とは異なるストーリーになっているので、原作の面白さは感じられない。少し分量は多いが、原作を読んでみると良い。他の例としては、三田誠さんの「レンタルマギカ」を挙げることができる。これは、テレビアニメ化されているが、これも、原作本とは違うストーリーになっている。原作本はカバーイラストが綺麗だし、イラストから登場人物が、はっきりイメージできるので、マンガを読むような感覚で、楽に読むことができる。読んでみてほしい。

ここまで、映像化されて、原作の良さが感じられない作品を挙げたが、次に映像化されて良かったと思う作品を挙げてみることにする。映像を先に見て、登場人物がイメー

### 通信ネットワーク工学科 正本 利行



ジでできれば、本を読むのが楽になるので、試してみたい。アニメ作品から挙げると、「精霊の守り人」が良いと思う。原作とは、少し異なるストーリーになっているが、原作の世界観は守られていて好感が持てる。人物だけでなく背景画像まで丁寧に描かれていて、作品の世界に引き込まれるように感じる。アニメと原作のストーリーが異なるので、アニメを見た後で、原作を読むのも楽しい。ドラマでは、名探偵ポアロの登場するシリーズが良いと思う。ポアロは、何人かの俳優が演じているのだが、NHKで放送されたデビッド・スーシェが演じたものが良い。私は、他の俳優が演じたものを見ても、全く興味が湧かなかったが、デビッド・スーシェが演じたものを見て、面白いと思った。それがきっかけで、原作本を読むようになった。本を読むとき、ポアロはデビッド・スーシェのイメージを持って読めるので、ものすごく楽に読める。ストーリーも面白いので、良かったと思っている。

映像技術が発展して、以前に比べて、映像化されてがっかりする作品は、少なくなった。けれども、依然として、本でしか良さの味わえない作品も多い。また、よくできた映像化作品をきっかけとして、原作本を読む楽しみ方もあると思う、いくつかの作品を紹介した。少しでも読書に親しむきっかけとなれば幸いである。

# 卒業生・修了生から

## 卒業生

### 本と図書館

建設環境工学科卒業生  
植松 凌



私にとって図書館とは、ふと気が付けば立ち寄ってしまう不思議な場所でした。自分自身でもどうしてこれほどまでにこの場所に引き付けられるのか疑問を抱きますが、まだ読んだことのない本がたくさんあり、それらを少しでも多く読むためなのだと思います。

なぜなら人と人との出会いが一期一会である様に、本と人との出会いもまた一期一会、「たった一度きりの瞬間」であるのだと思うからです。本なんていつで

も図書館にあるし、また繰り返し読めるものだと思います。たえ同じ本であっても読む環境、自分の精神状態次第で違った感想を持ちます。一度読んだ本であっても読み返すことによって一度目とは違った発見があり、少年期と青年期で大きく時期が作品のテーマそのものについても見解が変わってしまうことがあります。純粋な意味での「一冊の本を読む」という行為は一生にたった一度きりのものなのです。そしてその機会を図書館は私たちに提供してくれます。

普段、図書館を利用しないとといった人も軽い気持ちで足を運んでみてはいかがでしょうか。必ずあなたが夢中になって読み耽るような本がそこにはあるはずです。

### 私と本の物語

電子工学科卒業生  
岡本 陽



これは、私と本の物語である。

——小学生になると、一緒にいると楽しかったコイツとの関係は、だんだんと冷めた関係になっていた。「今日もおうちに帰ったら、「かさこじぞう」を3回語ってあげるね。」「またかよ。どうせ「かさこ」が一個足りないんだろ。」みたいな感じだ。そんなコイツは嫌いでも、普段のコイツは好きだった。空想上の物語や実在した偉人について語ってくれたり、科学知識を教えてくださいました。当時の私に対して友人は「昼休みも放課後も付き合ってるとか、お前は「図書館の不良」だな」と、あきれていた。

中学校では、テストの前日に徹夜でコイツの話に聞き入った。コイツが話してくれる“ハリー・ポッター”の最終巻には、テストとは比にならない魅力があった。

高専に入ると、私の理解を超えたコイツが多数出現した。「物理、化学、回路、プログラミングを理解していただかないと。」「分かってる。お前の扱いは難しいんだよ。」と困っていた私だが、“図解入門 よくわかる～シリーズ”といった武器（コイツ）を使って専門のコイツを倒せると気づいてからは、またコイツを好きになった。

このように、なんでもコイツに頼るという癖がついたのは、家にアイツがつながっていなかったからだろう。5年生になって卒業論文を書くとき、アイツを参考にしてはいけないということを知り、コイツと付き合っていて良かったと思った。これからもコイツとは、親友であり恋人、師弟であり戦友の関係でいたいと思う。

## 修了生

### ご利用下さい

創造工学専攻修了生  
佐藤 敦



閲覧スペースには十分な大きさの机、冷暖房のきいた空間、一般書物から専門書物まで幅広い分野の本が揃う本棚。勉強や資料探しに申し分ない図書館は、僕が何度も足を運んだ場所だ。

専攻科2年間のアルバイトとして、進学やテスト期間の際には利用者として図書館に深く関わられた。アルバイトでは、司書さんや事務の方々、バイトの中で先輩や後輩との交流があり、非常に良い環境の中で仕事

ができた。今まで他に2つほどアルバイトをした経験があるが、図書館のアルバイトは職場の環境が最もいいと感じた。

また、仕事上で新着本を目にする機会も多く、役立つ本や興味を引く本をチェックできた。その甲斐あってか本をあまり読まない自分が本を貸し出して読むようになったり、本を買って読んだりするようになった。あまり本を読まない方も図書館で本を探してみてはいかがでしょうか？自分が今まで知らなかった面白い本、進学や就職に役立つ本など良い本がきっと見つかるはずだ。

図書館は本を通して自分の視野を広げたり、勉強に集中できる環境を与えてくれるなどすばらしい場所だ。ご利用下さい。